opusdei.org

## 年間第9週・水曜日 75. 私たちは体ごと復 活する

イエスがはっきりお教えになった信仰の真理。 一 栄光の体の特質と能力。 一 体と霊魂の一致。

2024/06/05

年間第9週・水曜日

75. 私たちは体ごと復活する

イエスがはっきりお教えになった 信仰の真理。

- 一栄光の体の特質と能力。
- 一体と霊魂の一致。

## 75.1 イエスが明確に教えた信仰の真 理

復活を信じないサドカイ派の人々が イエスを困らせるために近づいてき ました。古代のモーセの掟によれ ば、「ある人の兄が死に、妻を後に 残して子がない場合、その弟は兄嫁 と結婚して、兄の後継ぎをもうけな ければならない」¹。 そして最初の 息子に亡くなった人の名前をつけな ければなりません。サドカイ派の 人々は、死者の復活への信心を笑い ものにしようとします。だから、彼 らは巧妙な仮説を作り上げました 2。 女が7回結婚し、次々にやもめ として残されるなら、天国では誰の 妻になるでしょうか? イエスは彼ら の考えの浅はかさをはっきり示すように答えられ、死者の復活の真理を述べておられます。イエスは旧約聖書からいくつもの出来事を取り上げて、復活した身体の特徴を詳しく説明し、サドカイ派の人々が差し出した異論をすべて論破されます。。

主は、彼らが聖書を知らないために 神の力を認めないことを非難されま す。この復活の真理はすでに啓示さ れたものにはっきりと表されている からです。イザヤは預言しました。 「あなたの死者が命を得、わたしの しかばねが立ちあがりますように。 塵の中に住まう者よ、目を覚ませ、 喜び歌え。あなたの送られる露は光 の露。あなたは死霊の地にそれを降 らせられます | <sup>4</sup>。マカバイの母 は、殉教の時、聖書の言葉を思い出 させて、息子たちを励ましました。 「世界の造り主は、憐れみをもっ て、霊と命を再びお前たちに与えて くださる。それは今ここで、お前た

ちが主の律法のためには、命をも惜しまないからだ」。また、ヨブにとってこの同じ真理は恵まれない日々の慰めになるものでした。「方には知っている。わたしを贖う方は生きておられ、ついには塵の上に立たれるであろう。この皮膚が損なわれようとも、この身をもって、たしは神を仰ぎ見るであろう」。。

私たちは、自分の霊魂に希望の徳、 特に神を仰ぎ見る希望の徳を培って いかなければなりません。愛する者 はお互いに見つめようとします。愛 する人々は、その人だけを見ようと します。それは必然的です。 人の心 はこの必要を感じます。もし、イエ ス・キリストのみ顔を見つめたいと いう熱意を否定するなら、嘘を言っ ているに違いありません。「主よ、 私はあなたの顔を捜し求めます!L <sup>7</sup>この望みは、私たちが忠実であれ ばかなえられるでしょう。神はご自 分の被造物である人間に関心を持っ

ておられるので、使徒信条の基本箇 条の一つである真理、身体の復活を 保証しておられます<sup>8</sup>。 もし「死者 の復活がなければ、キリストも復活 されなかったはずです。また、キリ ストが復活されなかったのなら、私 たちの宣教は無駄であるし、あなた がたの信仰も無駄です」<sup>9</sup>。「教会 は死者のよみがえりを信じますし、 この復活は、人間全体について言及 されていることも理解していますし 10。 また教会の神秘体についても然 りです。教導職で教会は、私たちが この世で過ごしていた時に生き、存 在し、動いたその同じ身体が復活す ることを、数多くの機会に繰り返し て教えていま $\tau^{11}$ 。2つの信条、 「死者の復活」と「身体の復活」 は、初代の教会の全く同じ伝統に由 来する互いに補足し合う表現です<sup>1</sup> 2。この2つの表現は継続して使われ なければなりません。

典礼では、この慰めの真理を数多く の機会に繰り返しています。「キリ ストにおいて、復活の希望が輝き、 死を悲しむ者もとこしえの生命の約 束によって慰められます。信じる者 にとって死は滅びではなく、新たな 生命への扉であり、地上の生命を終 わった後も天に永遠の住処が備えら れています」13。神は栄光の内に永 久に私たちを待っていてくださいま す。この世しかないと思っている 人々には何と大きな悲しみでしょ う! 恩恵の助けによって、イエス・ キリストと共に、天使、聖人と共に 永遠に生き、至高の三位一体を賛美 するのは、霊魂と身体共々私たち自 身だということを知るのは、何と大 きな喜びでしょう!

私たちが、愛する者の死を深く悲しんでいる時、家族の一員を失って悲しむ人と共にいる時、希望と慰めで満たすこれらの真理、生命はこの地上で終わるのではないこと、私たち

は永遠の生命において神に出会うために歩み続けていることを、人々の前で示さなければなりません。

## 75.2 栄光にあげられた身体の特性と 能力

死後、それぞれ霊魂は身体の復活を 待ちますが、それは、永遠に神の近 くにいる天国とはるかに神から遠く にいる地獄のどちらかになるでしょ う。天国では私たちの身体は異なる 特性を持ちますが、それは継続して 身体であり、キリストの栄光の御体 と聖母の身体と同じように、特別な 位置を占めることでしょう。私たち はこの場所がどこであるか、どのよ うに見えるか分かりません。私たち が知っているこの地球は形を変える でしょう<sup>14</sup>。「被造物は虚無に服し ていますが、それは、自分の意志に よるものではなく、服従させた方の 意志によるものであり、同時に希望 も持っています」<sup>15</sup>。生命を脅か

し、有害であるものはすべて消失す るでしょう<sup>16</sup>。聖ヨハネは黙示録で 証言しています。栄光に上げられる 者は、「もはや飢えることも渇くこ ともなく、太陽も、どのような暑さ も彼らを襲うことはない| <sup>17</sup>。黙示 録に記録された苦しみは、砂漠をさ まよった時、イスラエルの民に最大 の災難を引き起こしたものです。投 げやりのように襲った、焦げつくよ うに熱い太陽光線、彼らは疲れ果 て、乾燥した砂漠の風は力を消耗さ せました18。このような大変な艱難 は、新しい神の民である教会が、最 終的な家に向かう巡礼の続く限り、 耐え忍ばなければならない苦しみの 象徴です。

身体が栄光を受けることへの信仰と 希望によって、私たちは、身体に当 然与えるべき価値と敬意を持つよう になります。人間は、「身体を良い ものと見なし、敬意を抱く義務があ ります。神がそれを創造され、終わ

りの日に天に上げられるからです」 <sup>19</sup>。 それにもかかわらず、現代、私 たちが度々出会う身体に示される敬 意は、どれほど正しい評価からかけ 離れていることでしょう。確かに、 私たちには自分の身体に気をつけ、 病気、苦痛、空腹などを避ける適切 な手段を使う義務があります。但 し、終わりの日に、再び復活しなけ ればならないことを忘れずに。重大 なことは、地獄ではなく、天国に上 げられるべきだということです。健 康より大切なことは、私たちの生命 に関する神のみ旨を忠実に受け入れ ることです。身体の安寧に不相応な 懸念をしてはいけません。私たちが 受けるかも知れない苦しみや困難を どのように超自然的に受け入れるべ きかを知るべきです。痛みや苦しみ を避けるための通常の手段を落ち着 いて使うと共に、それらを超自然的 に活用し、天国の栄光において決定 的で十全になるが、今は相対的で一 時的な善に過ぎないものに心を惹か

## 75.3 身体と霊魂の一致

この世の身体と変容された身体には 大きな違いがあるのですが、その間 にはなおもまだ密接な関係がありま す。復活した身体はこの世で生きて いるときの身体と同じ具体的な体で す<sup>21</sup>。

霊魂の本質と聖書の何節かを根拠として、キリスト教の教えは、身体の

復活と、復活した身体が霊魂と一つ になることを教えています。第一 に、霊魂は人間の一部にすぎず、体 から離れれば、一人の人間全体が持 つ完全で完璧な喜びを持つことはで きません。さらにそのうえ、霊魂は 身体とひとつであるように創られて いるので、根本的な分離はその相応 しいあり方に反します。霊魂だけで も身体だけでもなく、霊魂が身体と 両方一緒に、一霊魂と身体とが揃っ た完全な人間が一この世での生き方 に見合った褒美や罰を受けることは (身体の復活の瞬間を待たずに、死 後、すぐに褒美や罰を受けることが 信仰箇条であるけれども)、神の知 恵、正義と憐れみにもっと一致して いることです。

教会の教えの光に照らしてみると、 身体は、霊魂の単なる道具ではない ことがわかります。神のお望みに よって、人間は、身体を通して、支 配し、働きかけ、聖化すべきこの世 の現実に接していることがわかります $^{22}$ 。 身体を通して、人は社会的共同体を築き上げ進歩させるために、他の人々と話し合ったり仕事をしたりすることができます。人間は、たりすることがの恩恵を受けることも、また、忘れてはいけません。「あなたがたは、自分の体が、キリストの体の一部だとは知らないのか」 $^{23}$ 。

うに教えてくださいと願いましょう。この地上で生活をしている間に 所有している身体は、神の言いよう のないほど素晴らしい栄光を永遠に 共有するように定められているので す。

(フランシスコ・フェルナンデス・ カルバハル『神との対話』)

<sup>1</sup> 申命記25:5

<sup>2</sup> マルコ12:18-27参照

<sup>&</sup>lt;sup>3</sup> The Navarre Bible, note on Mark 12:18-27参照

<sup>4</sup> イザヤ26:19

<sup>5 2</sup>マカバイ7:23

<sup>6</sup> ヨブ19:25-26

- <sup>7</sup> 聖ホセマリア・エスクリバー, Quoted in Newsletter No. 1
- <sup>8</sup> Symbolum Quicumque; Dz 4 0: Benedict XII, Encyclical Letter, Benedictus Deus, 2 9 January 1 3 3 6 参照
- Congregation for the Doctrine of the Faith, Letter about some matters referring to eschatology, 1
  7 May 1 9 7 9
- Eleventh Council of Toledo, year 6 7 5, Dz 2 8 7 (5 4 0); cf Fourth Lateran Council, chap. 1, On the Catholic Faith, Dz 4 2 9 (8 0 1) etc.
- Congregation for the Doctrine of the Faith, Declaration about the translation of the article 'carnis resurrectionem' of the Symbolum

Apostolicum, 1 4 December 1 9 83参照

<sup>13</sup> Roman Missal, Preface of the Dead 1

<sup>14</sup> M.Schmaus, Dogmatic Theology, vol. VII, The Last Things, p. 5 1 4 参照

 $^{15} \Box - 78:20$ 

<sup>16</sup> M.Schmaus, op cit, Vol.VII, p. 2 25 et seq参照

17 ヨハネの黙示録, 7:16

<sup>18</sup>シラ書43:4;Ps121:6; Ps 9 1:5-6参照

19 第2バチカン公会議,現代世界憲 章.14

<sup>20</sup> L.Ramoneda Molins, Untattered Winds, Montevideo, 1 9 8 4

<sup>21</sup> Dz 2 8 7, 4 2 7, 4 2 9, 4 6 4, 5 3 1 参照

22 創世記, 1:28参照

23 1コリント6:15

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-IX-sui/ (2025/12/13)